

一般排水口からの油流出について

本日10時15分頃浦底湾の海水面に油が浮いていることを確認致しました。
昨日(1月13日)10時15分頃、日本原子力発電(株)敦賀発電所と核燃料サイクル開発機構新型転換炉ふげん発電所の間位置する一般排水口より油が浦底湾に流出し、海水面に油が浮いているのが確認されました。

11時10分には、一般排水口からの油の流出は止まっていることを確認しましたが、油の拡散防止のため、既設オイルフェンスの外側にオイルフェンスを追設するとともに、海面に拡散した油膜を油吸着マットにて除去する作業を実施しました。 <1月13日発表済>

発電所設備の機器やタンク類の点検を実施したところ、油の漏えいは確認されませんでした。が、現在、雑固体減容処理建屋建設の土木工事を実施している現場の確認を行ったところ、現場の水たまり及び雨水溜め内に油が浮遊しており、この水を排水している側溝の流入部にも油膜が確認されました。

当時、当該工事現場においては、重機(削孔機)の分解作業を実施しており、その際、重機の表面に付着した油分及び装置の部品内に滞留していた油分が滴下し雨水溜めへ流入、排水ポンプの運転により重機から滴下した油が雨水とともに一般排水路へ排出されたものと推定されました。

油流出の防止対策としては、重機の分解・組立を行う際は、雨水については油分離槽付仮設タンクに一旦溜め、油の浮遊がないことを確認した後に、一般排水路に排出することとしました。

なお、浦底湾に流出した油の量は拡散状況等から約1～6リットルと推定されます。これらについてはほぼ回収を終了しております。

以上

添付 当該工事現場

添付 削孔機概要図

削孔機概要図

